

〜The Great Luck 初回音声〜

こんにちは、佐藤文昭です。この度はTheGreatLuck大幸運の法則をご購読いただきまして、ありがとうございます。とても嬉しいです。またこのような音声をダウンロードいただきました。ありがとうございます。

今回こちらの方はですね、本の終わりにも書かせていただいたんですけども、私自身の思考ですね。忘れないように、ひらがなの私という存在を、常に自分の中で意識できるようにという思いから、一つの本にまとめてみました。どうせまとめるのであれば、私自身の物語がとても好きなので、物語で書いてみると、私自身も何度も読み直すことが、楽しくできるかなと思ひまして。ちょっと変わってるんですけども、物語のように書かせていただいたものです。実際ですね、書いてみてなんですけども、やはり、本当に書いてよかったなっていうのはあるんですね。

二つの「わたし」と意識の在り方

それはなぜかというところ、私自身、ひらがなの「わたし」という意識ですね。存在っていうものを、常に忘れないようにするっていうのが、とても重要なポイントでして、どうしてもですね、こう日々の生活をしていくと、どんどん漢字の「私」ですね。ミトコンドリアの「私」という方に、意識が集中していつてしまいうんですね。で、今でもですね、私にも書かせていただいたんですけれども、九歳で禅宗の得度を受けさせていただいている関係から座禅というものがとても好きなんですけれども、今では座禅というよりも瞑想ですね、瞑想に近い形で毎朝、欠かさずやらせていただいているんですけども、そこではやはりこう心を落ち着かせるわけですね。

つまりミトコンドリアを落ち着かせているわけですから、とてもこのひらがなの「わたし」っていう存在に近い状態で、毎朝一日をスタートをさせていただくのですけれども、

やはり、こう生活をしていく過程の中で、どうしても忘れてしまうことが結構あるんですね。

最も身近なツール「スマホ」を、魂を思い出すための聖具に変える

そんな時にこの本を書いたので、その本の表紙を私のスマホの壁紙にしていたんですね。そうすると、スマホを開くたびにですね、その表紙っていうものを私は見ることができますから、思い出すことができるんですね。本に書いた内容。私自身が書いてますから、書いた内容というのも、最初のうちは何度も見直していたんですけど、もう何度も見直すうちに全て頭の中に入ってしまったので、あとは思い出すだけ。つまりトリガーを引くだけっていう部分で、スマホの画面。

私のユーチューブとか、そういうものを見ているわけではなく。仕事の調整とかですね。そこら辺をすべて、私は実は携帯でやってるんですね。で、パソコンというものをほとんど使わないです。パソコンを使う理由としては、本当に執筆のみですね。執筆活動のみで

パソコンを使っています。なので、メモ帳かワードのどちらかし開かないっていうのが、私のパソコンの役割ですね。ですが、普段はほとんど携帯ですべてのことをなしてしまうので、プライベートも仕事も一緒の携帯なんですね。本当にもう一台の携帯ですべてやってしまうので、その携帯の壁紙にさえしてしまえば、何度も何度もその表紙が私の目に留まるわけですね。そのたびに、ひらがなの「わたし」っていうものを思い出す、すり込みですね。自分の中でそれをやっていくことで、漢字の「私」、ミトコンドリアの「私」の方には引っ張られなくなっていくんですね。徐々に。

成長のプロセス.. 「竹の理論」

その徐々について言っても、これすごく大きなキーワードかなと思うんですけども。結構その「竹の理論」みたいな話も、私はすごい好きで、竹の中は空洞ですよ。で、下から上っていくと、途中で節があると、その節をどんどん叩くと割れて、次の段の上に上がれる。すーっとまた上がってまた節があるで、またその節を破ってまたすーっと上るという

話があるんですけども、その節がですね、一番下、この節っていうのは、やはり一番分厚くて硬いわけですね。なので割れにくいんですよ。

で、結構ここが、多くの方が勘違いする部分かなと思うんですけども、今、こんなに苦労して大変な思いをして、でその節を割ったとしても、こんなに苦労して割ったのであれば、次の節の時にはもっと大変なんじゃないかっていうふうに思ってる方もすごく多いと思うんですね。でも、実はそれは竹と本当に一緒に節は上に行けば行くほど、すごく薄くなっていくんですね。つまり、破れやすくなっていくんです。

だから、私もスマホの携帯で最初のうちは、もう見るたびに「あ、また忘れてた」みたいな、そのひらがなの「わたし」の存在を忘れてたっていうふうに思っちゃうんですね。思ってたことが何度もあるんですけども、後半に行けばもう忘れてないので、「あっ、そ

のまま私の存在でいればいいな」というふうに思うようになっていくんですね。これはデトックスをすればするほど、やはりその状態に近くなっていきます。

デトックス..不要なものを「引いていく」感覚

やはりそのデトックスっていうものは、最初は、本当に重要かなって思うんですね。何かを足すよりも、自分の中からいらないものを外していく、引いていくっていう感覚ですね。なので、それは食べ物も然りですね。食べ物でできる限りでいいと思うんですよ。もう本当にすべてを体に悪いものは絶対とらないみたいなことにしてしまうと大変ですよ。もちろん大変じゃない方は、それをやっていただければいいと思うんですけども、今の世の中、やはり大変かなと思うんですよ。なので、極端にではなく徐々にでもいいと思うんですよ。

お酒も好きなのであれば、徐々に減らしていく、嗜む程度に飲むっていうね。それくらいですごくいいと思います。私もね、未だにお酒はすごく好きなので、本当に嗜む程度で

すけども飲んだりもしてます。なので、無理にやめるとかではなく、本当に楽しくデトックスしていくっていう感覚で、いらないものをどんどん引いていく。そのミトコンドリアっていう漢字の「私」が溜め込んでしまう、重たくなってしまいうものを「あっ、これはもしかしたら重たくなってしまおう」というものがあれば、そこから逃げる・離れるっていうことも引くことですよね。自分の中から引いていくことです。

つまり、悪いニュースの数を見る数を減らしていくとか、そういうYouTubeとかを見ているのであれば、そういう数を減らしていく。ミトコンドリアが暴れそうなニュースですよ。どんどんその我欲が強くなって暴れていきそうなニュースがあるのであれば、それを減らしていくということもやっていくのが、すぐデトックスにつながっていきます。また、そのデトックスもですね、自分にできることからやっていけばいいかなと思うんですね。あの私の仲間の一人にですね、お風呂に入るとか、そういうのが好きな方がいらっしゃって。丹田浴をですね、その熱いお湯でおへそ辺りまでためる。で、その中に浸かって、汗をたくさんかくっていうデトックスをして、それが一回やったらすぐすっきりし

たということ、結構定期的にやるようになってから、どんどん軽くなっていくのが分かるっていう、ご連絡いただいたんですね。

やはり、軽くなっているのが分かってくると続けたくなりますよね。それって、それが分かってくると、徐々に周りで起きている現象も変わってくるらしいんです。その方も、どんどん付き合う方も、軽い方が増えてきたりとか、お仕事柄もすごく軽い現象、流れがよいようなことが起きてきたりとか、どんどんこう好循環になっていくみたいなんです。そうなってくると、起きている現象も連動していくわけですから、楽しくなってきますよね。デトックスをやっていくことが。ってなるとまた次なるデトックス、「あつ、じゃあ、もうこれもやってみよう」とかね。どんどんやる意欲が湧いてくるんですよ。

そうすると、例えば重たい食べ物とかあった時に、「ああ、せっかくここまで軽くなってるから、これを取るのもったいないな」っていう意識になるんですね。もったいないな

っていう意識になれば、もうこっちのもですよ。取らなくなるんですよ。なので、「これを取っちゃうと、またデトックス大変だから、絶対取らない方がいい」みたいな感覚になってくるんですよ。そうすると、どんどん好循環ですよ。どんどん上がっていくので、気づいた時には、もう完全にそのデトックスが終わり、常にひらがなの「わたし」とつながっている状態で、毎日を過ごすことができるというふうになっていくんですよ。

また、そのひらがなの「わたし」にですね、つながりやすくなると、やはりその未来の一コマを描くときも描きやすくなります。描きやすくなるし、そこに到達もしやすくなりますよね。で、デトックスがどんどんされていくにつれて起きる現象、起きる台本っていうものも、やはり竹と一緒に軽くなっていくんですよ。どんどん軽くなっていく。

宇宙が作る完璧な「台本」を信じる

だから、最初の台本っていうのが本当に、そこをどう自分の中でクリアするかなんですよ。これがね、この本の一番の重要なポイントで、この音声をお渡しさせていただきたいなと思った、一番のポイントなんです。どういうことかという、やはり今までの自分から抜け出して、漢字のミトコンドリアの「私」から、新たに平仮名の「わたし」っていう部分の意識を変えていくわけですよ。つまり、その過程、台本をいかに自分が信じて歩めるかなんです。台本というものは宇宙が本当に完璧に作ってくれているものだ、どこまで自分の中で信じ込めるかなんです。

これが台本を疑ったりするとか。そういうことをしてしまうと、また漢字の「私」、ミトコンドリアの「私」の方に意識を向いていってしまい、我欲に溺れ、またいつものね、

頂点に戻ってしまうんですね。ではなく、ひらがなの「わたし」で描いた未来っていうものは、一度描いてしまえばそこに向かって完璧な台本を宇宙は創造してくれます。

この宇宙というものは、この本を読んでいただければ分かると思うんですけども、そのひらがなの「わたし」の宇宙っていうものは決して、この私自身を苦めようなんていうのは、もう本当に1ミリも思っていないわけですよ。すべてが愛でできていて、絶対に苦しめたいなんて思ってるわけがないんですよ。だから、宇宙は絶対に私自身を苦めようなんて、本当に1ミリも持っていないわけなんで、その台本っていうものは本当に完璧に作られてるんですよ。なので、その台本を完璧だと思い込んで起きている現象っていうのは、必ずそのひらがなの「わたし」で描いた未来の一コマに向かうために、必ず必要な経験なんですよね。

この裏表の話もまあ、お読みになればわかると思うんですけども、今、この経験というものは、自分に対してどういうふうな解釈をすればいいんだろうとかっていうふうに考えていくんですね。そうすると、もう目の前の物事が全て、どんどんコインがひっくり返っていくわけですね。で、気づいた時には、ひらがなの「わたし」が描いた一コマにたどり着いているということなんですよ。なので、それはね、一度経験してしまえば、ああ、これは本当だったんだと。宇宙の台本というのは完璧で、未来の一コマを描いたらそこに行くんだという。

一度その経験をつかんでしまえば、あとはもう本当にトントンこう、ステップを歩む。まあ、本当にスキップするような感じですね。で、どんどん上の方に上がっていくんですね。好循環していくっていうんですかね。なので、本当に最初の一つ目ワンステップです

ね。そこをどれだけ自分の中で、その宇宙の台本を信じて、そして愛を持って、この今の人生を歩めるかにかかっていると思います。

これは私の経験から言えることなんですけども、そのうちの台本というものは私の思考では想像もできないようなものを作り上げてくるんですよ。私が例えば未来の一コマを描いたときに、おそらくこの出来事がこういうタイミングでこういう順序で私に訪れてくるんだらうなっていうふうに予想を立てるんですけども、その予想が当たったことが一度もないんですよ。びっくりするぐらいまさかかっていうことが起きるんですね。

で、まさかが起きるんですけども、そのまさかかっていうことが。実はまあ、その未来の一コマに通じる大切な出来事だったっていうのは、まあ後で分かるんですけども、それはね、起きたその未来の一コマがたどり着いた後に、過去を振り返れば分かるっていう話な

んですけども、そんなのね、行くまで分からないじゃないですか。人なので、起きた時は本当に私もまさかって思っちゃうこともあるんですよ。え、こんなことが起きて大丈夫？みたいなこと、本当にあるんですよ。その時に、本当にどこまで信じ込めるか。その台本を信じられるか。宇宙を信じられるか。愛を信じられるか。なんですよ。

今を生きて、本当に目の前のことにね。今を一生懸命に生きて、愛を持って、人生を歩んでいけば、本当に光り輝いていくと思います。そうになると、本にも書かせていただいたんですけども、光るお花になりますから。周りがまだ、そのひらがなの「わたし」で生きてない場合は、もしかしたら、その辺でひらがなの「わたし」で生きている方が、ものすごく光って見えるかもしれない。となると、光っているお花がポンとね、暗闇に咲いているわけですよ。そうになると、たくさんの蝶たちが寄ってきたりもするわけじゃないですか。で、その蝶がたくさん寄ってきちゃうわけですから、別にね、やみくもになって捕

まえる必要もないわけですよ。で、捕まえて、自分の虫かごに入れる必要もないわけですよ。そんな素敵な人生っていうものが、ひらがなの「わたし」っていう部分に集中するこ
とで訪れていきますので、ぜひ、トライしてもらえたらすごく嬉しいなと思います。

人間の現状維持機能・・「リスク・ホメオスタシス」

また、こちらは本には書いていない内容にもなるかなと思うんですけど、人間には、
どうしても自分を守るエリアっていうものがあってですね。例えば、リスクホメオスタシ
スなんていう言葉もあるんですけど、これはそのリスクの許容範囲という部分の話に
もなるんですが、例えば高速道路を車で走っていると、100km道路であれば100kmぐらい
で走ったりしますよね。でも、狭い路地とかを走る時には100kmで走る人はいないですよ
ね。20kmとか30kmとか、ゆっくり注意して走るわけですよ。それで何が起きているか
ってというと、リスクを同等程度にしているわけですよ。

高速道路のような、視界がいい場所であれば、まあ100kmとかね。走れるような道路なわけですから、ほぼ直線だし、カーブも緩いですし。で、信号もないですから。100kmで走っても安心できると。でも路地であれば、いつ何が起こるか分からないうえ、飛び出してくるかもしれないし、狭いので急なカーブもあるかもしれない。だから、そこで100kmなんて出してしまったら、すぐに、車がぶつかってしまいかもしれないわけですよ。だから、スピードを落として、リスクの量を一定に保つっていう話があるんですね。

もっと別の話の方が分かりやすいかなと思うんですけども。今ですね、ちょうどここが少し暑い国にいますね。で、今住んでる家の何個か前の家の時に窓からですね、常にパラセリング、パラグライダーですね。で、こう上から降りてくる人たちがたくさん見えるんですよ。山とかがない国なので、皆さんが小さな飛行機で飛んでいくんですね。飛ん

でいって、どんどん降りてくる。もうひっきりなしですね。どんどん上から降りてくるんで、窓の光景がずっとね、その降りてくる方達を見ちゃうんですよ。

見てて、面白いなあって思ったのが、とんでもない勢いで着地する人がいるんですよ。中にはもういや、激突するよっていうぐらい、直角に下りてきて、ギリギリのところでヒュンと。なんて言うんですか、降りるって言うんですか、ちよっとイメージしづらいですかね。ギリギリでもう本当に急降下するんですよ。地面にぶつかるぐらいの勢いで急降下してくるんですよ。すれすれで、多分こう紐を引くんでしょうね。私は乗ったことないの、ヒュンって引くと床と水平になる、地面と水平になるっていうような降り方をする人が何人かいるんですよ。見てて。で、もちろんスーっとね。安全に降りる方もたくさんいるんですよ。

で、それも見てるとね。どれくらいの確率だろうな。多くはないけど、二割ぐらいはいるかな？ってくらいで、見てて、わあ、危ないなあっていうふうにな、思ってたんですけど、でも、それも実はリスクホメオスタシスが働いているんですね。どういことかという、昔はですね、その事故が多発した時があつて、それは何かというと、上からジャンプするじゃないですか。でもかなり上から飛ぶので、やはり怖いという恐怖がありますよね。で、中には失神しちゃう方もいるらしいんですよ、失神するので、自分でこう紐を引けない方とかもいらつしやるらしくて。

つまり、紐を引けないっていうことは開かないってことですよね。つまり、そのまま落下してしまう事故というものが昔発生して、途中からある一定の高度になると、自分で開かない場合は自動的に開くようになったらしいんですよ。ちょっと私はね、経験者じゃないので、あまり詳しいことは言えないんですけども。じゃあ、それで事故の量が減ったか

っていうと、実はそうではなく、あまり減らないんですね。なぜかっていうと、そこで事故のリスクが減った分、さっきも言ったようにこう地面すれすれで急激に降りて、ヒヨツと着地するっていうような、危険な行為をし始めるようになったらしいんですよ。それで激突して、事故になる人が急増したらしいんですね。

つまり、リスクの量を合わせているんですよ。同等程度に。それを、要は全体的に合わせるっていうイメージなんですよ。みんながひらがなの「わたし」につながってるっていうのは、それで理解できると思うんですね。全員で一つのエネルギーボールを作り、そこでリスクを同等に合わせるっていうようなイメージです。つまり人っていうのはそれくらい、ホメオスタシスというものは強烈に働くんですね。

今は、そのリスクっていう、リスクホメオスタシスの話をしたんですけども、別にホメオスタシスの自分の許容範囲の中から出ようとしなくていい働きも持ってるわけですね。つまり、今の自分の現状はこれなんだっていうふうな思い込みがあると、そこから、出ようとしなくていいですよ。出ようとする、また何か言い訳とかで、自分の中で思考が働くんです。そのミトコンドリアが働いて引き戻すような働きをするんですね。もしくはそういう集団にいますと、誰かがそこから抜け出そうとすると、引き戻そうとするんですね。その中にいさせる、まさに集団の心理も働くのです。そこには、一つ一つ個人の心理も働きまじり、そういう集団としてのエネルギーの心理も働くということです。

「殻」を破るための具体的な行動

なので、そこから抜け出さなきゃいけないんです。抜け出す必要がある。だから、本にも書いたように、今いる場所から移動するっていうのが一番早いんですね。一番早い。そういう重たいエネルギーを発する集団があるのであれば、そこから自分は抜け出して別の

場所に行ってしまう。会社なら、会社を別の会社にしてしまう、というのも、一つの場所の移動ですし、別の国に行ってしまう、別の地域に移動してしまうとかね。本当に自分をあえてそこから離すんですね。

そうすると、離れてしまったものはもう、引き戻そうにも遠すぎるので、引き戻せないのですよ。だから、そこでホメオスタシスは発生できなくなるんですね。だからこそ、場所を移動するとか、そういう自分にとって、何か強烈な体験っていうものは、一気に殻を破ることができます。

例えば、砂に埋もれる砂浴ですね。これも、ものすごいデトックスがあるんですけども。私の仲間に、砂浴をしたらすごいデトックスになるよって言うのと、したいって言うので、連れて行ったりもするんですよ。で、一緒に川に行って、スコップで掘り、砂の中に埋ま

り、しばらく経って、出た後は、砂まみれですから、一緒にね、川で泳ぐっていうこともしたりするんですけども、やはり、それを行った後、ものすごいスツキリするって皆さん言うんですね。なんだろう、このスツキリ感っていうか開放感っていうか。で、今まで体験したことがなかったって言うてくれる人が、本当にたくさんいらっしゃるんですね。

なので、例えば、本を買っていただいた方と、私が一緒にツアーとか。ツアーじゃなくてもいいんですけどね。本当に一緒に遊びに行つて。例えば、一緒に川の砂、砂浴ですね。砂の中に埋もったりとか、一緒に川で泳いで遊んだりとか、そのまま、川のそばで焚き火をしてね。で、マシユマロでも焼きながら、火を囲んで、この本の内容についても語り合ったりとかね。そんなことをしていくと、本当にデトックスが進んでいくんですね。

だから、そういう人たち、仲間たちっていうものを自分で作っていく。自分が率先して作っていく。自分が率先して、それになっていくっていうようなイメージで実践していくと。どんどん、軽くなっていくのがイメージできますよね。だから、そういういいエネルギーの循環っていうものが、どんどん周りに共鳴していくんですね。なので、そういうエネルギーの高い人、高い集団とかの中に入るっていうのも、やはり、自分の殻を破って、枠の中から出る行為につながりますので。行動ですね。

行動って言っても本当にこれをやらなきゃってわけじゃなくて、何でもいいんです。森の中にいって、公園でもいいですけどね。もし、そこが芝生であれば裸足で歩いてみるとか。実際、私のいる、この場所は、本当に歩いてすぐに結構大きい芝生の公園があるんですね。サークルの公園なんですけれども、そこで裸足でキャッチボールとかしています。すごい気

持ちいいですよ。足は、汚くなったら洗えばいいだけですからね。なので、かなり裸足でキャッチボールはしてますね。すごく気持ちいいので。

なので、そういうふうには、近くに何か自然があるのであれば行ってみて、海にも入ってみるとかね。川にも入ってみるとか。それだけでも全然違ったすっきり感っていうか、デトックスが、始まっていくと思うんですね。なので、何か、今までとは違った行動、それ自分からデトックスしていく方向になるような行動っていうのを心がけて、何かこう動いてみる、やってみるっていうことをしていくと、本当にどんどん軽くなっていくのが分かりますので、ぜひやってみてもらえたらなと思います。

最後に

この本の追加の音声ということで、今回これを取らせていただいたんですけれども、やはり一番伝えたかったのは、本当に自分の人生っていうものを信じて。宇宙の愛っていうものを信じて。絶対に困らせようとしてないので、困らせるようなこと、絶対しないですからね。なので、その台本を信じて。このひらがなの「わたし」を思い出しながら、日々、光に包まれて愛に包まれて、今を生きてもらえたらな、と思っております。

また、何かこの本を読んで感想とかありましたら、どこかLINEとかでいいんですけども、送っていただけるととても嬉しいです。このたびはこのような音声をダウンロードしていただきまして、本当にありがとうございます。また、こちらの本をご購入いただきましてありがとうございます。この応援を大切にしたいと思いますので、これからどうぞよろしくお願い致します。